



里人の信仰心が凝縮した「薬師古道」 里100選の地・八郷に復活

「万博の森」は筑波山系の西麓にある。ちょうど反対側の東麓は、「にほんの里100選」の茨城県石岡市八郷地区だ。茅葺き民家が点在する里に、古道が復活した。

八郷地区西南部の菖蒲沢集落。この地の菖蒲沢薬師は、藤原仲麻呂の子で奈良六宗のうちの法相宗を東国に広めた徳一上人が大同2年(807)に開いた東光寺の奥の院として「筑波四面の薬師」に数えられてきた。正保3年(1646)、天保10年(1839)に火災にあったが広く信仰されてきた。老朽化したため、地元の薬師保存会(中村實会長)らが薬師堂と薬師如来像を修復し、09年に開眼供養。古道はボランティアも加わり整備した。今回は、保存会の鈴木右一さん(76)に案内役をお願いした。

■神や仏が続々登場

古道のスタート地点は菖蒲沢公民館。脇には徳一上人の住んだ跡とされる「御小屋」跡がある。あたりは「寺上」「寺脇」など寺にちなんだ小字が残る。

古道は進むに従って幅が狭くなる。最初に行き当たるのが馬の守護神「馬櫛神」だ。農耕や運搬に使われてきた馬の健康と安全を願うために祀ってある。その先には陰暦23日の夜に講の人々が集まり祈願する「二十三夜供養塔」。さらに先に注連縄が張られ、巨大な岩に刻まれた「氏神様」が現れ、大日如来の使者を祀る「不動尊」がすぐに登場する。1^キ足らずの古道は、里人の信仰心が凝縮している。

さらに進むとスタジイの大木に囲まれた「天白位稲荷大明神」。自然色の支配されたおごそかな森の中で、赤と青で彩られたキツネの像がくっきりと浮かびあがっている。

神社を過ぎると分岐点。左に折れて狭まった山道を行く。やや勾配が強くなる。一面のコナラ林だ。森閑とした中、「カサカサ、ハラ」と葉の落ちる音が、心に沁みる。

300^ヤほどで、水の様「龍神」につく。巨岩の足元に小さな祠。広場は雑木が取り払われ、絶景ポイントだ。さらに進めばコース終点の庚申塚に至る。

分岐点に戻り薬師堂に向かう。下りの石段に至ると、古道の視野が一気に開ける。左下に弁天池。その先、上りの

菖蒲沢薬師古道コース

(距離は菖蒲沢公民館が基点、番号は右ページと共通)



階段上の薬師堂が見渡せる。階段を配することで立体的な視覚効果を生んでいる。古道の入り口の狭さからは想像できない、時空を超えた広がりを感じられる。

■森林浴にもうってつけ

薬師堂には薬師如来坐像が鎮座する。像高148^{センチ}。今回の修復作業で、胎内から墨書が見つかった。施主として東光寺29代別当の名と仏師3人の名があった。年号は「貞享四丁卯天」。西暦1687年。「2度目の火災では、村人によって運び出されて難を逃れたことがわかる」(鈴木さん)。信仰心の詰まった古道は往復しても1時間余。樹種も多く、森林浴にもうってつけだ。(編集部)

◆菖蒲沢まではJR石岡駅から車で30分。スタート地点の菖蒲沢公民館に駐車場はあるが、県道からの進入路は狭い。車の場合、公民館から1.2^{キロ}離れた石岡市の体験型観光施設「朝日里山学校」(☎0299-51-3117)がある。公民館まで徒歩20分。

◆イベント 6月5日(土)に古道と「にほんの里100選」の里を巡るウォーキングが催される(36ページ参照)。問い合わせは、駅からハイキング事務局03-5719-3777。